

令和4年度 第1回 東北農政局補助事業評価技術検討会 議 事 概 要

- 1 日 時：令和4年12月16日（金）9:30～12:00
- 2 場 所：仙台合同庁舎A棟7階TV会議室（宮城県仙台市）
- 3 委 員：氏家豊美委員、近藤正委員、高橋英子委員、藤科智海委員、森洋委員長
※ 五十音順、敬称略

4 内 容：

補助事業における本年度の再評価対象である

- ・ 水利施設等保全高度化事業「大崎西部3期地区」
- ・ 水利施設等保全高度化事業「広野地区」
- ・ 農村地域防災減災事業「沢内地区」

に係る評価結果書案等について資料－1、資料－2、資料－3により説明し、審議を行った。

また、本検討会は①傍聴可（傍聴者なし）、②配布資料は検討会終了後、東北農政局ホームページで公表、③議事録は検討会終了後、発言者及び発言内容を明記の上、東北農政局ホームページで公表することを決定した。

5 審議内容：

（1）水利施設等保全高度化事業「大崎西部3期地区」

○ 藤科委員

総費用総便益比が上がった理由如何。

○ 水利整備課

現在価値の算定に係る評価基準年が着手時から再評価時となることに伴う割引率の変更によるもの。

○ 藤科委員

具体的に良くなったところは無いという理解で良いか。時点の変化のみという理解で良いか。

- 水利整備課
然り。時点のとらえ方が変わったもの。

- 森委員長
旧樋管の撤去が必要となった理由如何。
また、文化財調査の内容如何。

- 水利整備課
樋管とは、河川から取水をする際に堤防底を通水する用水路を指しており、頭首工を新設したことによって不用となる樋管の撤去を行うもので、存置することによって堤防破堤等につながる恐れがあり、河川管理者から撤去を求められたもので、本地区の場合は河川構造令に基づき、13か所の古い樋管の閉塞を行うもの。
また、文化財調査の内容については、施工時に地盤を掘削したところ、埋蔵文化財が発見されたもので、担当部局へ報告したところ、調査した後に工事を実施することとなったことから、工事進捗に影響が生じたもの。

- 森委員長
本地区で造成する頭首工は2か所ともゴム堰か。

- 水利整備課
ゴム堰は大筒堰頭首工のみである。

- 森委員長
ゴム堰の選定理由如何。

- 水利整備課
経済性や施工性などの条件を総合的に判断し、頭首工の形式を選定しているもの。

- 森委員長
青森県においてゴム堰が多いイメージがあるが、宮城県でも採用されているのか。

- 水利整備課
経済性の評価等の理由からゴム堰が積極的に採用されていた時期もあることが要因の1つとして考えられるが、宮城県に限らずゴム堰は造成されている。
- 藤科委員
工期延伸理由として挙げられている河川協議や地元調整については、当初の想定よりかなり期間を要したという理解で良いか。
- 水利整備課
旧樋管の撤去13か所と頭首工造成に際しての河川協議や地元調整に当初想定以上の期間を要したと宮城県から聞き取っている。
- 近藤委員
受益農家と経営体はどのくらいいるのか。
関係する土地改良区はどの程度あるのか。
上堰頭首工の構造を教えてほしい。今年度の明治用水頭首工のようにパイピングが発生しないよう、何か対策等を行っているのか。
貴重な動植物とはどのような種類か。
- 水利整備課
貴重な動植物について、レッドデータブックに載っているような貴重な種類の動植物はいなかったと聞いている。
上堰頭首工についてはゲート式であり、現在の設計基準に倣ったもので工事を実施していることから、パイピングについては十分な対策が図られているものと思料。
農家の関係については、1,111haに対して約1,000戸のため1戸あたり約1ha程度であり、集積等が進展しており、法人の設置も進んでいると県から聞きとっている。
関係土地改良区については江合川沿岸土地改良区のみである。
- 近藤委員
ゲートは1門で良いのか。
- 水利整備課
門数までは把握していないが、洪水吐と土砂吐の最低2門はあるものと思料。

- 近藤委員
扇状地であり、当該頭首工の危険度は大きいのではないかと。
- 農村振興部長
頭首工の安全性について、今年度の明治用水頭首工の事案が発生した直後、一定程度の規模を持つ頭首工の緊急点検を農林水産省全体で実施したところ。この結果、当面の問題は無いことが確認されているが、現在、図面のチェック等を進めているところ。

(2) 水利施設等保全高度化事業「広野地区」

- 近藤委員
本地区で実施されている用排水路の管水路への再整備やほ場整備は、みどりの食料システム戦略と整合性は図られているものなのか。
- 水利整備課
本事業のスタート時点ではみどりの食料システム戦略は策定されていなかったものの、水田の汎用化等に有効な事業内容となっていることから、当該施策に沿った形で事業が実施されているものと思料。
- 近藤委員
現在、農村地域の生態系が激しく劣化していると思料。次の世代に継承できるように生態系の配慮にもう少し力を入れても良いのでは。
また、メダカの生息が確認されているとのことだが、酒田市であればジオパークもあり、貴重な生物もいるものと思料。ワンドを整備したということだが、是非現地調査をしたい。
- 水利整備課
生態系の配慮について、今後検討してまいりたい。また、ワンド等は既に整備が完了している。機会があれば現地を見ていただきたい。なお、基礎資料にワンドの写真を掲載しているので、御参照願いたい。
- 藤科委員
効用に関する説明のうち、総費用が増額となっている一方でそれを補う便益があるとのことだが、便益の増額分のうち大きな要因は何か。

- 水利整備課
食料の安定供給に関する効果のうち、作物生産効果に係る部分で枝豆やねぎなどの高収益作物の導入によって生産効果が出ているものと理解している。
- 藤科委員
地下かんがいの整備を行ったことで、枝豆や長ねぎといった作物が生産可能となったためという理解で良いか。
- 水利整備課
然り。地下かんがいの整備により、農地の汎用化に寄与することから、そのような効果が発現しているものと考えている。
- 農村振興部長
費用対効果について、平成27年度からその他の効果として国産農産物安定供給効果を計上できることとされたところであり、これらの要因から効果が上がったと思料している。
- 藤科委員
承知した。広野地区では受益者がかなり減っているのに対し、先ほどの大崎西部3期地区では全く変わっていなかったが、なぜか。
- 水利整備課
広野地区については、農地集積の進展等により法人化も進んでおり、見た目受益者が減っているものと思料。さらに、先ほどの大崎西部3期地区については正しい数字を把握しきれていないため、増減の整理ができていないもの。
- 藤科委員
集積が進展しているから受益者数が減っているという理解で良いか。大崎西部3期地区については数字の把握が困難という理解で良いか。
- 水利整備課
大崎西部3期地区についてはそのとおりの。

- 高橋委員
効用に関する説明資料のうち、総費用の計算式に誤りがあると思われるので、確認すること。
また、事業効果の早期発現に向けて、地元関係者から事業の早期完了が望まれているとのことだが、今後、事業が完了すると長ねぎ等の野菜の栽培を併せた複合経営に取り組むことにより、更に効果が発現していくという理解で良いか。

- 水利整備課
効用に関する説明資料の計算式については確認する。
効果がさらに発現していくという点については、水田の汎用化等が図られることにより、現在見込んでいる以上に効果が発現していく可能性もあるものと思料している。

- 森委員長
広野地区には耕作放棄防止効果が計上されている一方で、大崎西部3期地区には計上されていないが、これは良いのか。
また、スマート農業の導入も見据えて事業計画を考えているものなのか。

- 水利整備課
耕作放棄防止効果については確認する。
スマート農業導入の関係については、広野地区内で ICT 化のモデル事業を実施しており、先進的に取り組んでいる地域と認識している。

- 藤科委員
地下かんがいは FOEAS のようなものをイメージすれば良いか。

- 水利整備課
然り。用水も排水も制御できる施設であり、FOEAS と似たような施設となっている。

- 近藤委員
当該地域は低平地に位置していると認識しているが、近年のゲリラ豪雨により湛水しやすいのではないかと思料。田んぼダムのような機能もここに入ってくることとなるのか。河川等流域の外水位が高くなると地下かんがいによってこの地区が排水しづらくなることはないのか。

○ 水利整備課

田んぼダムとは異なる機能を持つが、地下水位の制御をできるため、洪水を一時的に貯留する機能も持っているのではないかと思料。ただし、御指摘のとおり施設による湛水への御懸念については、今後検証する必要があるかと思われる。

○ 近藤委員

暗渠だと酸化鉄が通水を阻害する事例がある。一見、近代化されたほ場という印象があるが、他方で弱点もあるのでは。補助事業ではあるが、万が一のことがあれば国も責任を持ってフォローしていくということか。

○ 水利整備課

口径があまり大きくないので、目詰まり等といった事例も出てくることと思料。そのような点も踏まえながら、事業実施主体である山形県と、本地区の今後を注視していければと考えている。

○ 近藤委員

生産性を上げていくという方針を取っていると思料するところであるが、今後、生態系への配慮についてしっかりとフォローして行ってほしい。

○ 農村振興部長

広野地区は河川の末端に位置し排水が悪いことから、暗渠排水を導入することの効果期待できるものと考え。また、自然圧の管水路の整備であり、加圧式の管水路とは違い、CO2の排出量も少なく、環境にやさしい整備と思料している。目指していくシステムの1つだと思っているので、東北農政局としても本地区の今後については注視してまいりたい。

(3) 農村地域防災減災事業「沢内地区」

○ 藤科委員

事業量が減っているにも関わらず、総費用が増えているのはなぜか。
また、算定基準が変わっていないのに総便益額が増えているのはなぜか。

- 防災課
主要工事計画における水抜きボーリングや地表水排除工の数量は減となっているものの、斜面改良工や土留工、抑止工といった1式の表記となっている部分において事業量が増となっているため、総費用が増となっているもの。
また、事業完了が令和2年度から令和5年度となったことにより、3年分の年効果額が増加していることから総便益額が増えているもの。
- 藤科委員
総事業費が増となった工種の事業量増を記載すると、より分かりやすいのでは。
- 防災課
了解した。
- 藤科委員
受益者数が変わっていないが、実際にはどうか。
- 防災課
確認する。
- 高橋委員
受益者とは、農家の人数なのか、一般住民も含むのか。一般資産被害軽減効果には家屋や神社と記載があるが、受益者数に基づくものなのか、それ以外の部分も含まれるのか。
- 防災課
受益者とは対象農地等の農家戸数を指す。一般資産被害軽減効果については、農地や農業用施設の被害軽減を目的に事業を行うことにより、それに付随して家屋や神社等の被害軽減が図られるため、効果として計上しているところ。
- 高橋委員
受益者数としてはあくまで農家戸数を計上するが、実際にはもっと広い範囲でメリットが出てくるという理解で良いか。
- 防災課
然り。

○ 近藤委員

地すべりの発生による河川のせき止め等を無くしているといった、流域全体での保全効果があるはずだが、それが数値として出てこないのは歯がゆいという感想。

○ 防災課

流域の下流も含めればもっと大きな効果も見込むことができるものと思料するが、どこまで被害が及ぶのかという点についてデータ整理が難しい部分がある。また、本地区については付近に大きな河川もないことから、地すべり防止区域に対しての効果算定を行っているところ。

○ 森委員長

この地すべり防止区域の田は棚田か。

○ 防災課

概ね棚田である。

○ 森委員長

耕作放棄地はどの程度か。耕作放棄地に地すべり発生要因があるのではと推測している。水管理が適正になされていない耕作放棄地から地すべりが進展すると考えている。耕作放棄地と地すべりの因果関係に対する知見等を県では持ち得ているのか。

○ 防災課

耕作放棄地の位置については把握していない。地すべり発生の要因は地下水がすべり面に供給されることに起因するものであり、3～4月といった融雪期に顕著に地すべりが発生することから、耕作放棄地と地すべりの因果関係はあまりないと認識している。

(以上)